

カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)	
産業技術短期大学	ディプロマ・ポリシーの達成のため、「一般教育科目」、「キャリア教育科目」及び「専門教育科目」を開設し、さらに、各学科の教育目的に則り、専門科目を体系的に学べる教育課程を提供する。 それぞれの教育内容は次のとおり。 ・ 一般教育科目を通して、幅広い教養と豊かな人間性を身につける。 ・ キャリア教育科目を通して、自己の将来を自ら設計する力を身につける。 ・ 各学科の専門科目において、各分野の基礎的概念、知識、原理を身につける。 ・ 実験、演習等の能動的な学修を通して、基礎知識を利用できる応用力を身につける。 ・ 卒業研修において、設定されたテーマに基づく研究を少人数で行い、その成果をまとめること等により、応用力を高めるとともに、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。 また、学修成果の評価方法としては、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・評価基準により評価を行う。 そのほか、学生本人が自身の学修成果を把握するために定期的な調査を実施する。
機械工学科	機械工学科では、ディプロマ・ポリシーの達成のため、中堅機械技術者の育成を目的としてカリキュラムを編成する。 ・ 1年次には、機械工学の基礎を学ぶために必要な、工学基礎科目及び機械工学の専門基礎科目を配置する。 ・ 2年次には、機械工学の幅広い分野への適応力と問題解決能力を養うため、機械工学の応用科目と卒業研修を配置する。 また、学修成果の評価方法としては、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・評価基準により評価を行う。 そのほか、学生本人が自身の学修成果を把握するために定期的な調査を実施する。
電気電子工学科	電気電子工学科では、ディプロマ・ポリシーの達成のため、中堅電気電子技術者の育成を目的としてカリキュラムを編成する。 ・ 1年次には、電気電子工学の基礎を学ぶために必要な、工学基礎科目及び電気電子工学の専門基礎科目を配置する。 ・ 2年次には、電気電子工学の幅広い分野への適応力と問題解決能力を養うため、電気電子工学の応用科目と卒業研修を配置する。 また、学修成果の評価方法としては、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・評価基準により評価を行う。 そのほか、学生本人が自身の学修成果を把握するために定期的な調査を実施する。
情報処理工学科	情報処理工学科では、ディプロマ・ポリシーの達成のため、中堅情報処理技術者の育成を目的としてカリキュラムを編成する。 ・ 1年次には、情報処理工学の基礎を学ぶために必要な、工学基礎科目及び情報処理工学の専門基礎科目を配置する。 ・ 2年次には、情報処理工学の幅広い分野への適応力と問題解決能力を養うため、情報処理工学の応用科目と卒業研修を配置する。 また、学修成果の評価方法としては、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・評価基準により評価を行う。 そのほか、学生本人が自身の学修成果を把握するために、入学直後の基礎確認テストや定期的な調査を実施する。